

高専教員・学生の専門知識とネットワークを活用した中学放射線出前講義の新潟モデル
 長岡技術科学大学 末松 久幸

本年度4月に新潟唯一の原子力に関する専攻を設立した本学は、シビアアクシデントを含めた原子力発電のリスクについての現実的な認識を新潟県民と共有し、防災体制の向上に務める強い使命観を有している。

さらに、本年中学校の学習指導要領が改訂され、中学校で放射線教育が始まり、生徒の原子力への距離を縮めるための道筋が整備された。ところが、中学教諭は放射線教育を行うことに対して不安を感じている。これに応えようと県教育委員会や教育センターが講習会を企画しているが、中学教諭は多忙でごく一部しか参加できない。このため、放射線の正しい理解を進めるための教育が、原子力のデメリットのみを強調する場になりかねない。特に、原子力に対して常に厳しい目を向けている新潟では、これが強く懸念される。

本学は、高専卒業生のための教育機関として36年前に設置された。高専では、福島第一原発事故後も原子力への高い関心が持続しており、原子力の専攻設立の必要性を感じている学生が77%もいた。さらに、高専には、博士の学位を持つ教員が多数おり、その中には核物理、炉工学などの高度な知識を有する者もいる。また、高専教員は、高専の魅力を優秀な生徒に伝えるために、中学生との直接対話を強く望んでいる。この高専教員・学生のシーズとニーズを活用し、大学と共同で中学にて放射線の出前講義を行えば、誰にも無理を強いることなく新潟県全体の原子力発電のリスク認識を向上させることが可能となる。

さらに、国立高専は51校がほぼ全国に分布している。もし新潟でこの教育プログラムが成功すれば、この“新潟モデル”を容易に全国展開可能である。本事業では、高専を中心とした中学-高専-大学院一貫教育の提案と、その効果の実証を目的とする。必要な霧箱、ベータちゃん、サーベイメーター、火力発電デモ装置を購入し、中学での最初の出前講義を2/8と2/14に行う予定である。

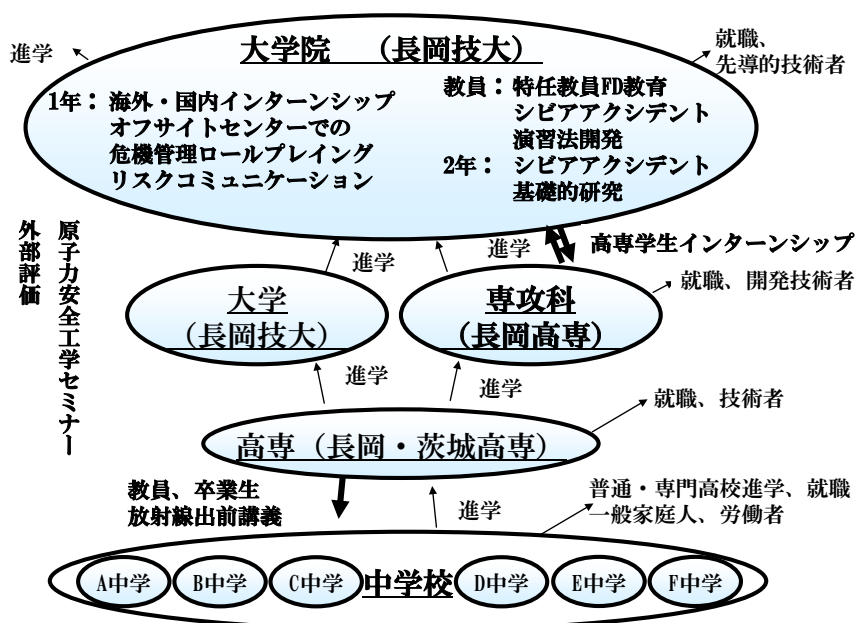


図1 中学—高専—大学院原子力人材育成“新潟モデル”